



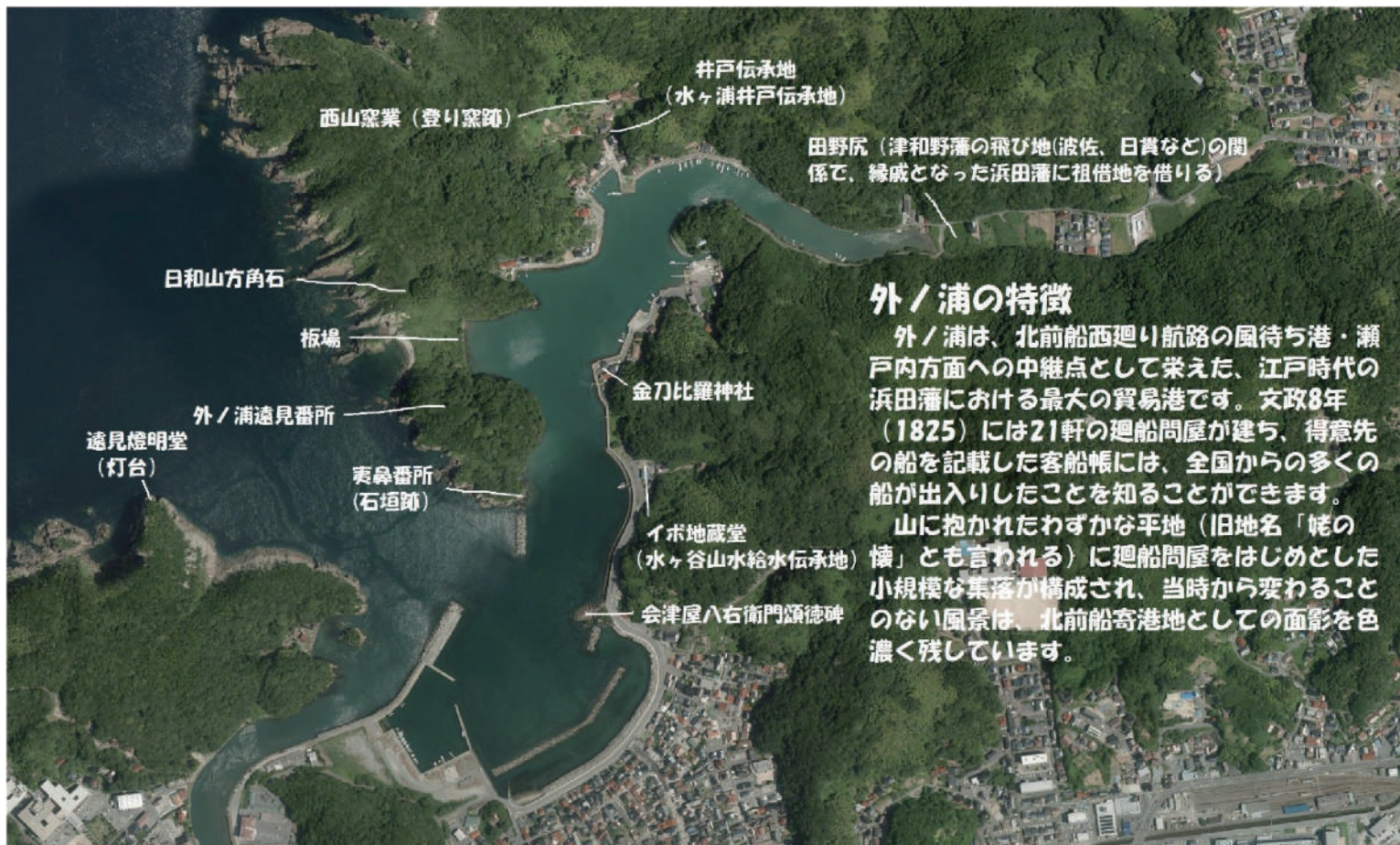
JAPAN HERITAGE

荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間
～北前船寄港地・船主集落～

浜田市外ノ浦

日本遺産とは

日本遺産は、地域で受け継がれている伝承、風習などを踏まえた有形・無形の文化財をストーリーでつなげることで、観光資源としての活用及び地域活性化を図ることを目的として、文化庁が認定するものです。



外ノ浦の特徴

外ノ浦は、北前船西廻り航路の風待ち港・瀬戸内方面への中継点として栄えた、江戸時代の浜田藩における最大の貿易港です。文政8年(1825)には21軒の廻船問屋が建ち、得意先の船を記載した客船帳には、全国からの多くの船が出入りしたことを知ることができます。

山に抱かれたたわやかな平地(旧地名「姥の懐」とも言われる)に廻船問屋をはじめとした小規模な集落が構成され、当時から変わることのない風景は、北前船寄港地としての面影を色濃く残しています。

構成文化財

1. 外ノ浦の町並み

深い入り江に沿って船主集落が展開する北前船の風待ち港。北前船との売買や水補給などが行われました。



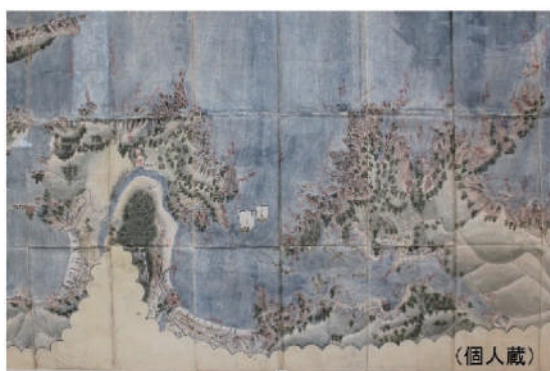
風待ちに適した外ノ浦の入り江

2. 日和山方角石… 北前船の船頭たちが出港前に日和を見た場所。方角石で風向きや潮の流れを確認しました(山陰で現地保存は外ノ浦のみです)。



3. 自唐鐘浦至長浜浦海岸絵図

北前船と関係した廻船問屋・米屋が、出入りする諸国の船や停泊場所を示すため、描かせた絵図です。



(個人蔵)

4. 諸国御客船帳… 北前船の廻船問屋は、出入りした船を国別、地域別に整理し、船形(彩色)や積荷・揚荷などを記して顧客名簿としました。



(個人蔵)